

●鍋大賞には倶知安女性ドライバー同好会の『燃えるトマト鍋』!●



倶知安女性ドライバー同好会は会員32名。交通安全を願い春、秋の交通安全はもとよりストップ・ザ・交通事故死、目指せ安全安心をスローガンを掲げ活動しています。

今回はユニホオームの赤に負けない燃えるトマト鍋で勝負しました。



●燃えるトマト鍋●

【4人分】
 ・じゃがいも男爵 200g・トマト 50g・酒 2g・鶏肉 80g・人参 40g
 ・白菜 40g・長ネギ 40g・シメジ 30g・トマトケチャップ 2g・キムチ 2g
 ・干しいたけ 5g・ウィンナー 20g・だし汁(花かつおと昆布)
 ・にんにく・欠け・コチジャン少々
 <作り方>
 ①鍋に 720cc の水に昆布をつけ、花かつおで出しを取る。
 ②じゃがいもは洗って皮を剥き、茹でる。
 ③鶏肉を一口大に切り、酒につける。シメジはほぐし、しいたけは戻して干切りにしておく。
 ④人参はいちょう切りにしておく。鶏肉はざつとやきめをつける。
 ⑤ウィンナーを乱切りにする。
 ⑥鍋に水を入れ、人参、鶏肉、白菜の順に入れて煮る。
 ⑦煮えたら、シメジ、しいたけ、ウィンナー、トマトを入れ味付けをする。

●「〇だけ食べる」のは不健康!? フードファディズム●



『フードファディズム』とは「食べ物や栄養が健康や病気へ与える影響を過大に信奉したり評価すること」をいいます。「〇を食べると健康に良い」、「△を食べるとダイエットできる」とテレビで特集された後にスーパーで納豆やトマトが売り切れて大変!! なんてことは記憶にありませんか?

1つの食品だけを食べて健康になるのは無理です。そんな夢の食品があれば、私も欲しい! でも残念ながらありません。もう何回も聞いたことあるよ〜と言われてしまいそうですが、バランスよく、腹八分目が健康への近道です。

栄養士 小屋畑麻未



●食卓に春の彩りを1品/スナッペンどうのごま和え<2人分>●

・スナッペンどう 20さや位・ごま 大さじ1・砂糖 小さじ1
 ・しょうゆ 大さじ1/2

<作り方>

①スナッペンどうはスジをとって、ふっとうした湯で1分程度ゆで、冷水につける。斜め半分に切る
 ②ごまはすって(すりごまでもO.K.)、砂糖としょうゆと混ぜる。スナッペンどうを和え、できあがり。

1人分 エネルギー 57kcal 塩分 0.7g

コゴがポイント!
 ごま和えはほうれん草など他の野菜でもおいしく食べられます。すじ取りはお子さんにお手伝いしてもらって、食欲アップするかもしれません!)

今月の特集 『落語の本』

4月24日(火)
 図書整理のため休館

守り人シリーズの外伝です。皇子チャググムをさらったヒュウゴの生い立ちと女用心棒ハルサの少女時代の2本立てです。

上橋菜穂子

絵本館

10〜18時 (水曜休館)

リスとはるの森

ないた

中川 ひろたか

へんな立体

杉原 厚吉

『炎路を行く者』

上橋菜穂子

公民館3階図書室

10〜18時 (月曜休館)

今日の新春

あんどん

孫正義伝

震える牛

相場 英雄

ピンクとグレー

加藤 シゲアキ

地層捜査

佐々木 譲

晴天の迷いワジラ

美澄 美澄

一石二鳥の敵討ち

佐藤 雅美

花酔ひ

村山 由佳

それでも三月は、また

谷川 俊太郎

途方もなく霧は流れる

唯川 恵

ルースヴェルト・ゲーム

池井戸 潤

運動が苦手な子どもたち集まれ!



2月14〜17日、運動が苦手な子を対象に、体をいっぱい使って運動する楽しさを知らせてもらおうと、町スポーツ推進委員会が1・2年生を対象に旭ヶ丘スキー場と総合体育館で、スポーツ教室を開催しました。

同教室には、連日約10名の児童が参加。スキーやそり滑り、キャッチボールなど、初めて顔を合わせる人々と交流し、4日間楽しんでいた様子。

参加した児童の保護者からは、「来年度も続けてほしい。子供が早く体育館にいきたくて言っている」という声もあり、同推進委員会は、今後についてもこのような活動を続ける予定です。

スポーツの「楽しさ」実感できたかな?



あの時代 この時代

その34 『春スキー』 昭和38年 4月28日



スキー伝来100周年

今月4月17日はレルヒ中佐が100年前にスキーで羊蹄山に登った日。

ふる探訪
 349回

ニセコ高原比羅夫スキー場の名称は、昭和37年3月9日から12日にかけて倶知安町ひらふスキー場で開催された第40回全日本スキー選手権大会アルペン競技会から使用されたそうです。この大会の開催を受けて、昭和36年12月17日にニセコ高原リフトが完成しました。さらに、レストハウス(ニセコヒュッテ)、山田温泉新館、大丸ヒュッテ(後の大雪閣)が相次いでオープン。路線バスも、国鉄バスが比羅夫駅から山田温泉間、道南バスが倶知安と山田温泉間を運行するようになり、週末スキー列車「準急ニセコ号」の運行などと相まってひらふスキー場への入り込みが増大するようになりました。

新雪のゲレンデを滑る醍醐味も格別であるが、春の陽気の中で千メートル付近から滑走する春スキーもまた格別なものがああり、多くのスキーヤーを魅了しました。

北海道産業貢献賞

角田 義弘氏

昭和44年、蘭越町森林組合に奉職し森林造成・管理指導に尽力され、58年に千歳林業株式会社を設立。現在まで永きにわたる自己所有林及び社有林の育成に携わり、後志地区を中心として全道的に造林事業等を展開し、地域の森林整備に貢献されています。

この間会社経営の傍ら、平成13年度には「北海道指導林業家」に認定され、自己所有林を試験林等に提供し、森林施策に関する講師も努め、また、後志地区指導林業家連絡協議会会長も兼ね、地域の強いリーダーシップを発揮するほか、木材生産性の向上、林地残材の有効利用、林業労働環境の改善など多年にわたる林業振興への取り組み等、地域林業の振興に大きく貢献された功績を称え、23年度北海道産業貢献賞(森林づくり功労者)を受賞されました。

伊達 隆氏

昭和62年から平成23年まで8期24年、倶知安町農業委員会として本町の農地行政・農業振興に尽力するとともに、平成11年から23年まで4期12年、農業委員会会長を務め、適正な委員会運営にその力を発揮しました。

さらには、平成20年から23年まで1期3年、後志地方農業委員会連合会会長並びに北海道農業会議常任会議員を務めるなど、卓越した見識と優れた指導力、豊富な経験をもって、地域のみなさん後志の農業振興の促進に努めてきたもので、地域の農業振興発展に多大な貢献をしてきたものです。